

いつ起こるか分からない災害に備えて

つらい避難生活、一変してしまった街並み、このような状況に自分が置かれたとイメージしていただければ、自ずと何をすべきか見いだすことができますでしょう。

家の耐震補強、家具の固定などすぐやらなければならないことはたくさんあります。

訓練に参加したり、防災に関する知識や技術の習得をしたり、みんなで助け合って家族と地域を守る備えが必要です。一人ひとりの防災対策が街を強くします。一人の力は小さくても、地域で力を合わせれば、計り知れない力となります。

だから、

①女・男がともに支え合う地域づくり

男女が共同して災害復興に対応できるよう、常日頃から家庭や地域、職場などで男女共同参画を実践しましょう。



②防災・災害復興の分野への女性の参画推進

災害時には、防災・災害復興対策や方針決定の場、防災組織、自治会など積極的に参画し、地域の防災力の活性化を図りましょう。男女共同参画基本計画でも、防災分野での女性の参画が重視されています。

防災運営委員会



③防災訓練・学習会などの積極的開催と参加

日頃の備えと訓練で、災害の共通認識を持ち、誰もが慌てずに行動できるようにしましょう。



我が家の防災メモ			
火事・救急 119 警察 110 災害用伝言ダイヤル 171			
氏名・住所・TEL			
連絡先	電話番号	連絡先	電話番号
市区町村		電力会社	
消防署		水道局	
警察署		病院	
ガス会社		薬局	
家族の連絡先と役割			
家族の連絡先	連絡先(学校・勤務先)	電話番号・携帯電話	役割分担
家族のデータ			
名前	生年月日	血液型	アレルギー、持病、常備薬、主治医など
避難場所			
一時避難場所			
広域避難場所			
家族の集合場所			

※薬の袋には薬剤名、用量、服用方法などを記入

※母子手帳、メガネ、義歯、補聴器、杖などをわかる場所に

警戒宣言が発令されると

東海地震強化地域内では、次のような対応がとられます

電気・ガス・水道→供給は継続

鉄道→原則として最寄りの駅まで運転し、以後運転中止
小田急小田原線は相武台駅以西で運転中止

バス・タクシー→運転中止

病院→耐震性のある病院は診察継続

学校機関→児童・生徒は状況に応じて保護者に引渡し

電話→一般利用が制限

道路→強化地域内への進入制限

金融機関→ATMは営業継続。窓口は可能な限り継続

コンビニなど→耐震性のある店舗は可能な限り営業



制作 2009年1月 なでしこ防災ネット
発行 2009年4月 薬野市役所

保存版

女性の視点からの 防災対策

大切な人と暮らしを守るために
日ごろの備えをしていますか？



このリーフレットは、
男女が共に支え合い助け合える地域、
防災体制づくりに向けて、
「防災・災害復興の担い手としての女性」
「災害の被害を受けやすい女性」の
立場から日ごろの備えと工夫について
まとめたものです。



なでしこ防災ネット

なぜ、女性の視点から？

女性の肩に 母親が慌てると子供や老親は不安が増長する。
母親がパニックになったら乳幼児は助けられない。
ライフラインの断絶→片付けや水、食料、燃料の確保
保育所、学校、サービス施設の閉鎖→子ども、
お年寄りの世話、夫は職場の復興が優先

防災、災害復興の担い手と災害弱者の両面を持つ女性

①防災・災害復興の担い手

日頃、家にいるのは多くは女性。出社して不在の男性陣。待たなしの救助活動。家庭・地域の情報通である女性の力や役割は非常に大きい。

さまざまな地域活動に日頃から地道に取り組んでいるからこそ発揮できる力、期待される力があるのです。

②災害時に被害を受けやすい

阪神大震災後、女性たちがこんなことを語っていました。プライバシーの侵害、「男は会社、女は家庭」という意識偏重、不当解雇、パートの大量解雇・離職・性暴力・児童虐待・障害者や母子家庭への支援などは後回し。

女性の視点でも検討しよう



災害時に被害を受けやすい女性に配慮した支援、
高齢者・子ども・障害者などの立場での支援も必要です。

